

奥田連峯堂

THE PREMIUM



奥田連峯堂

TEL:075-561-3655 FAX:075-525-1148

営業時間:11時 - 18時 定休日:毎週水曜

〒605-0073 京都市東山区祇園町北側244

<http://www.renpoudo.com>

✉ renpoudo@nth.biglobe.ne.jp

1. 古清水 鳳凰文水注

径17cm（注口、取っ手含） 高さ12cm

SOLD

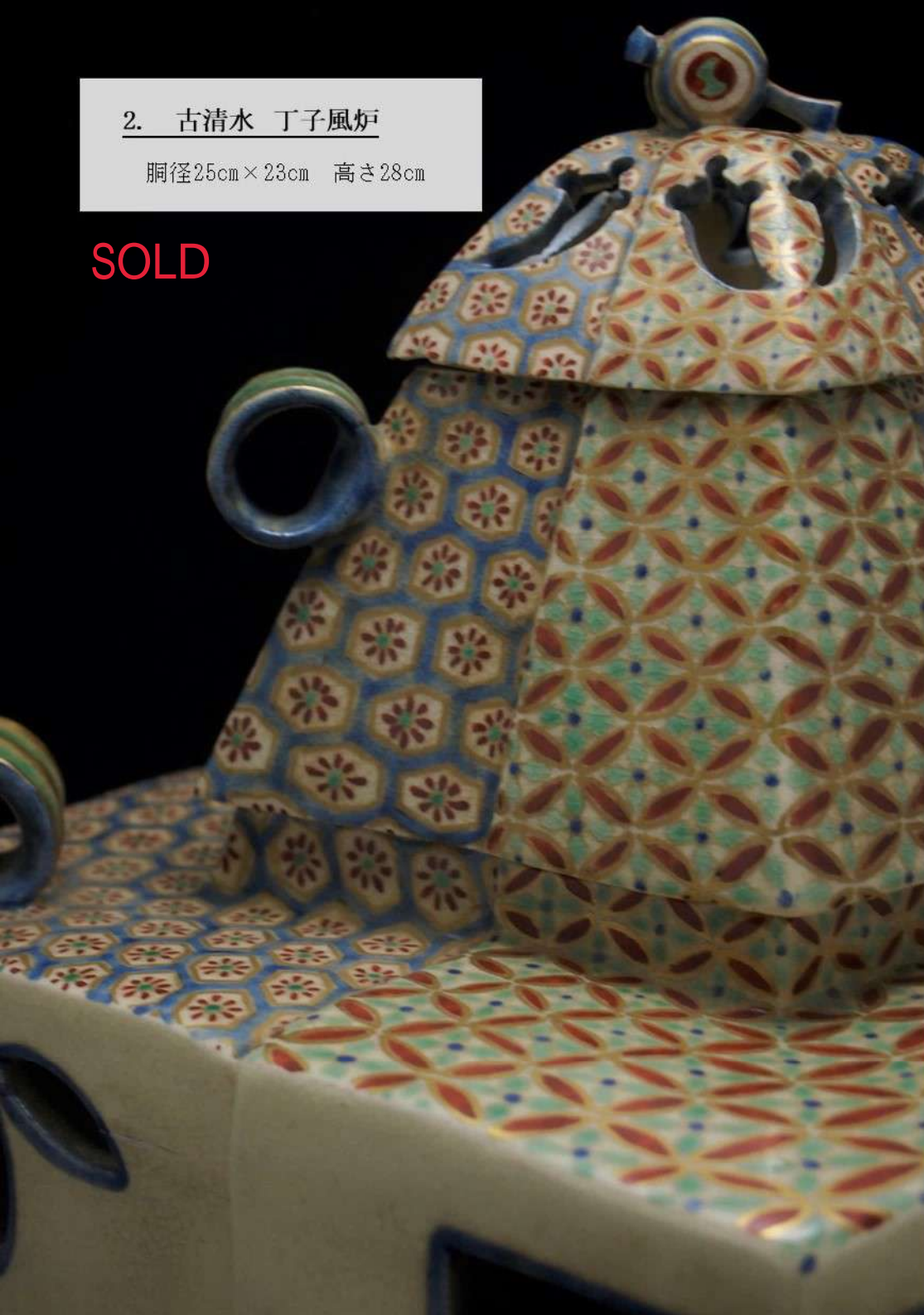


幕末に磁器焼成が本格的に始まり、これが「清水焼」と呼称されるようになる。江戸時代中期以前に京で焼かれた陶器を「古清水」と呼ぶようになったと言われます。また、江戸時代後期にあっても磁器とは異なる京焼色絵陶器の総称としても用いられています。

2. 古清水 丁子風炉

胴径25cm×23cm 高さ28cm

SOLD





丁子風炉は、香炉に似た用途の風炉で、丁子を煎じて香気を出させ、室内の防臭・防湿に用いるものです。

上から蓋、釜、炉の三つの部分に分かれます。一番下の炉の部分に灰を入れ、火を起こした炭をのせます。

真ん中の釜の部分には、丁子の花蕾と水を入れ、湯を沸かします。一番上の蓋の透かしから丁子の香気を立ち込めさせます。

若松の画が描かれ、笹に象られた透かしが入っています。

七宝文様と花亀甲文様が隙間なく描かれています。

蓋の裏側にソゲと、側面に窯キズがあります。



3. 祥瑞 松竹梅図皿10客組

径 約21cm 高さ 約4cm

中国 明時代（17世紀）



見込みには鳥と梅の文様が描かれています。呉須の青色のものと、白抜きのもの2種類あります。鳥が描かれておらず、梅だけのものもあります。高台内は、角福銘が書かれています。





祥瑞は、一般的に中国 明時代末期 崇禎年間（1628～1644）頃を中心に日本からの注文により江西・景德鎮の民窯で焼かれた染付磁器のことで、日本での呼び名です。古染付に比べて、上質な胎土と顔料を使い、端正な形に丁寧に文様を書き込んでいます。祥瑞という名の由来は、一説には、一部の作品の銘文に「五良大甫 吳祥瑞造」と書かれていることにあります。これは「吳」家の五男の家の長男である「祥瑞」が造ったと言われています。

4. 古染付 山水図角鉢

径16cm×6cm 高さ4cm

中国 明時代（17世紀）

SOLD



四方の角が隅切になっており、見込みは円形に繰り抜いたような形の浅めの鉢で、厚手です。見込みは、山と海（川）が描かれている代表的な山水図です。下の方には優雅に釣りをしてる人物も描かれています。



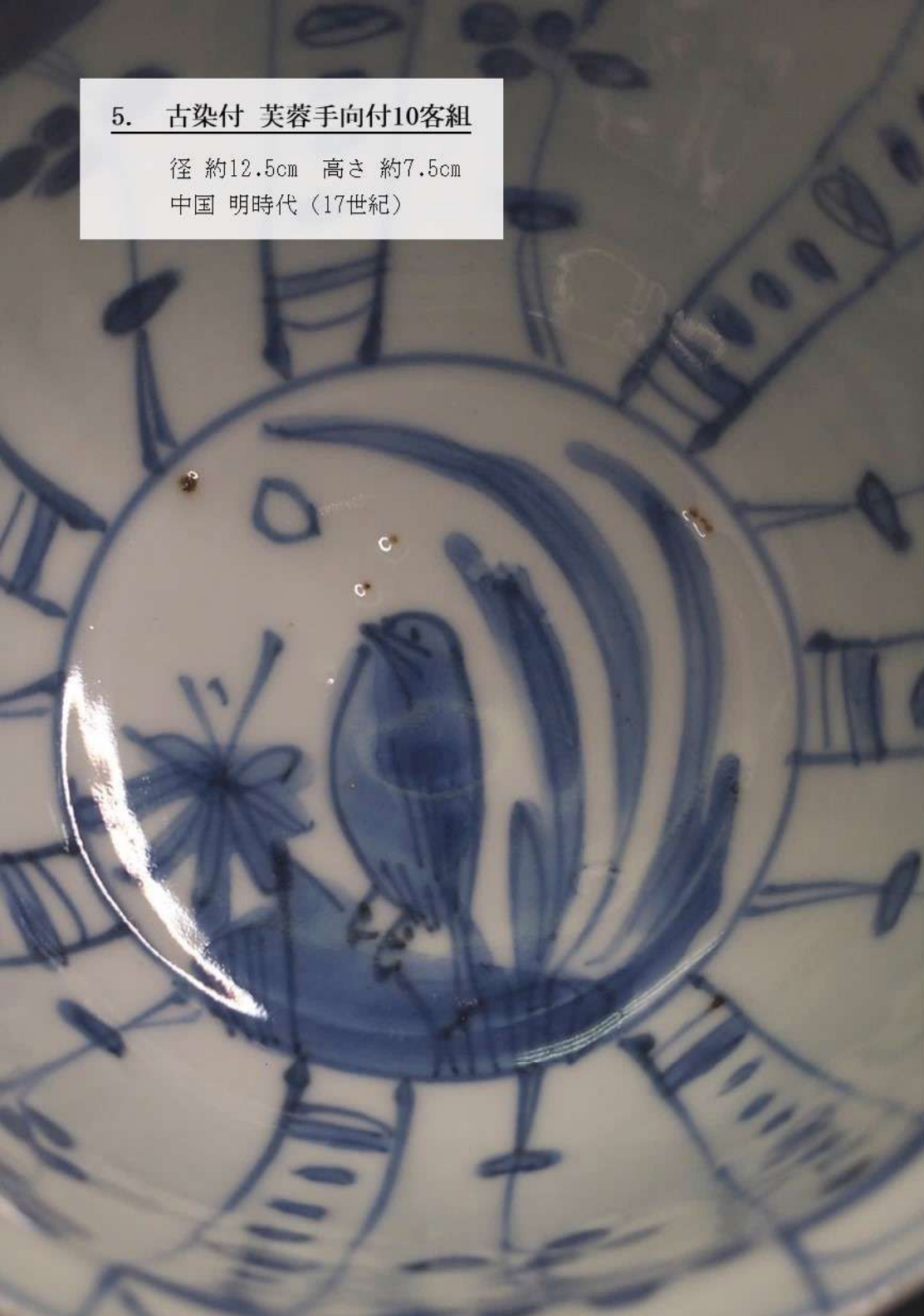
ところどころに虫食いが見られます。胎土と釉薬の収縮率が違うため、器の屈曲部などで釉薬が剥落し、胎土を露しており、これは、まるで虫が喰ったように見えるその様子から「虫喰い」と呼ばれます。茶の湯の茶人は、ここに自然の雅味を見出して喜び、その味わいを美的効果として評価しました。高台は無銘です。



5. 古染付 芙蓉手向付10客組

径 約12.5cm 高さ 約7.5cm

中国 明時代（17世紀）



見込みに鳥の図が描かれた芙蓉手の向付10客組です。
そのうち、1客にひっつきと小ホツが有り、1客には側面に
ジカンが見られますが、その他の状態は良いです。



芙蓉手とは、見込中央に大きく円窓を設け、その周囲を区切る文様構成が、大輪の芙蓉の花を連想させることから、日本では「芙蓉手」と呼ぶようになりました。

6. 御本茶碗

径16cm 高さ4cm



口造りは歪みが有り、総体は貫入が入った枇杷色ですが、一部青みがかった部分が見られ、良い景色になっています。ニューや直しは無く、良い状態です。



蓋裏に「昭和甲申元旦 松意軒」と箱書きが有ります。

甲申は、1944年(昭和19年)です。松意軒は不明ですが、お正月に翁・三番叟という銘を付け、お使いになられたのでしょうか。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。



7. 六代 清水六兵衛 古稀彩夫婦鶴茶碗

径11.5cm 高さ8cm

共箱



古稀彩（こきさい）は、8代六兵衛が古稀を迎えた際、発表した絵付けの新技法で発泡性のガラス質の釉が厚く掛けられ、金銀彩や紫、赤などを施した色絵の技法です。独自の研鑽によって数々の新しい釉薬を開拓した8代六兵衛を代表する技法のひとつです。

※共箱の写真が、最終ページの箱書き一覧にあります。

8. 二代 賀集珉平 注連飾茶碗

径10.8cm 高さ5.8cm

共箱

SOLD



少し黄色味がかった素地に貫入が細かく入り、上絵付けに若松、笹、小さな海老の注連飾りと、宝珠が絵付けされています。

珉平焼は、江戸時代に淡路島の南端、三原郡伊賀野村（現南あわじ市北阿万伊賀野）で賀集珉平が始めました。仁阿弥道八の弟で、京都の陶工の尾形周平を招き、京焼の色絵陶器技術とそのデザインを導入しました。

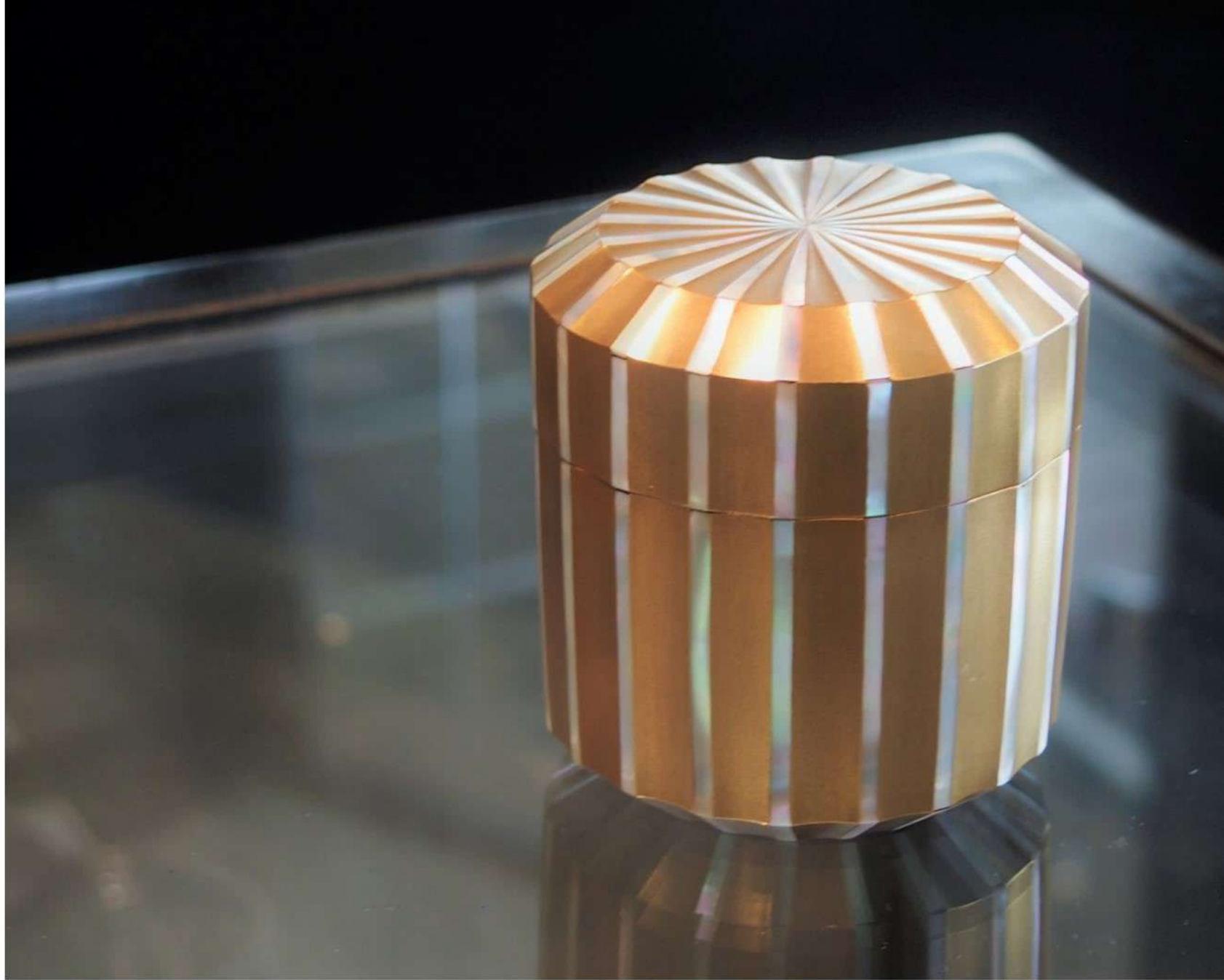
※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

9. 五代 川端近左 青貝筋文雪吹

径7.5cm 高さ8cm

共箱、鵬雲齋書付箱 **SOLD**





大名縞と呼ばれる筋文が螺鈿を用いて装飾された、雪吹です。雪吹の蓋裏には鵬雲斎大宗匠の在判が有ります。

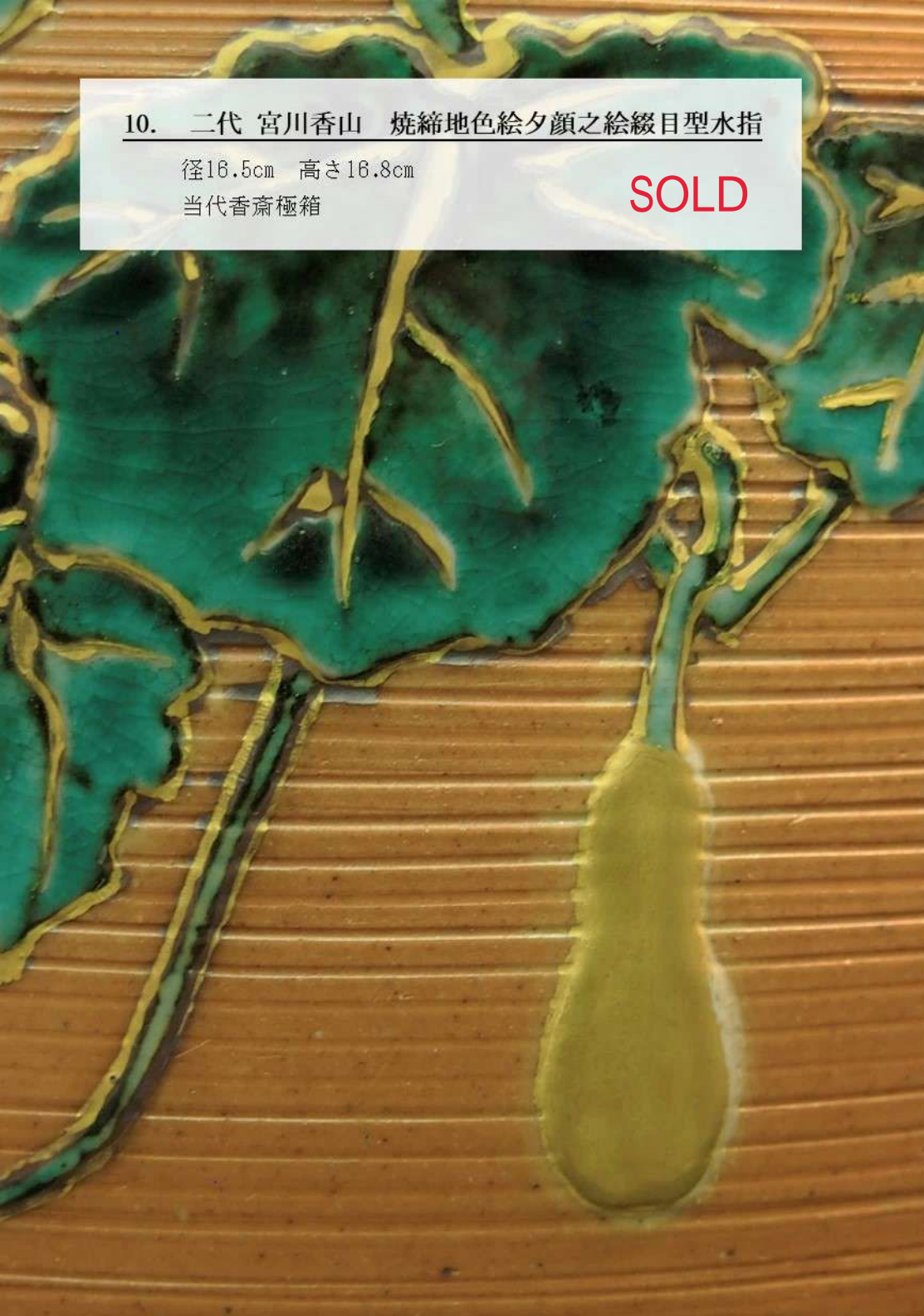
※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

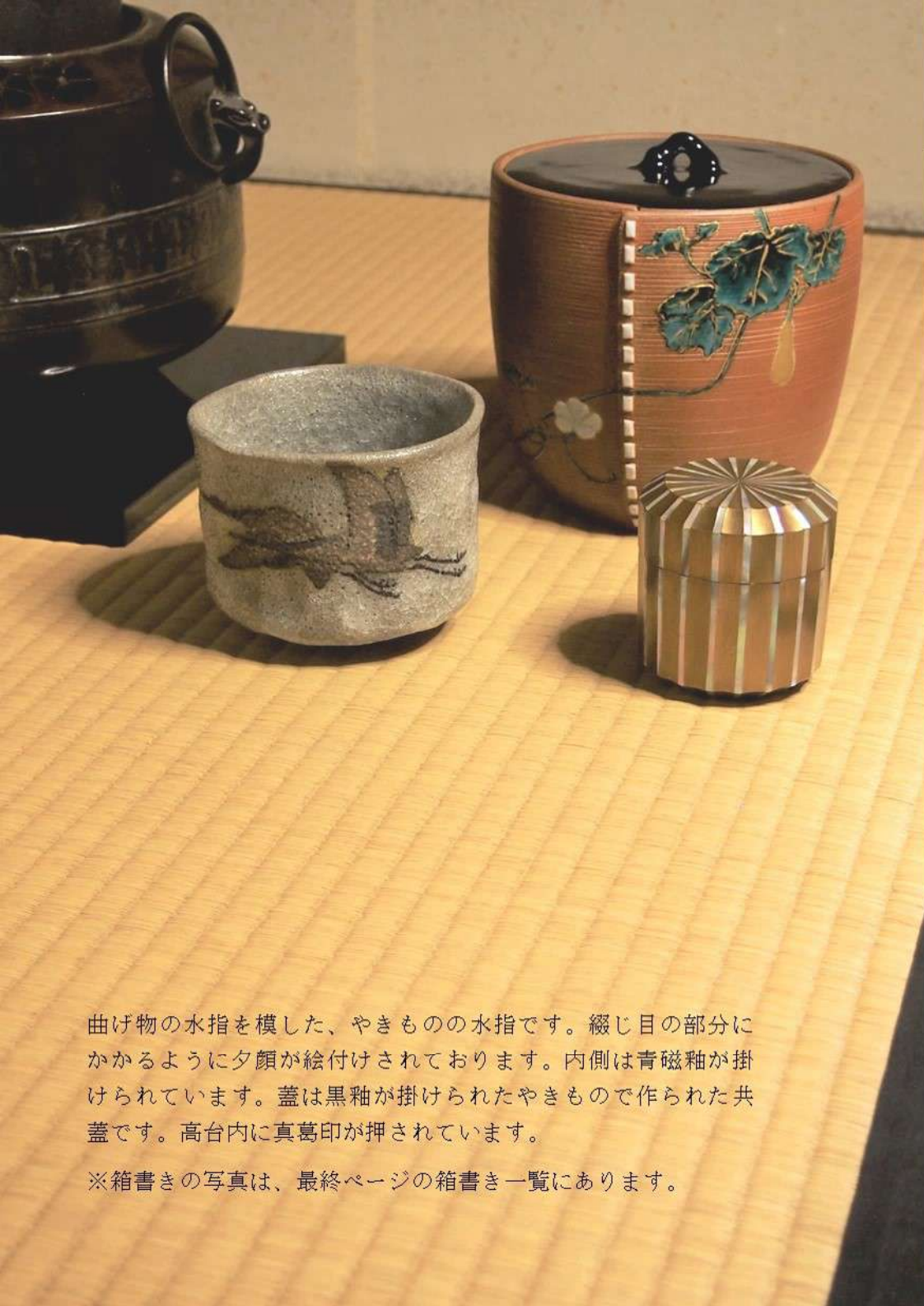
10. 二代 宮川香山 焼締地色絵夕顔之絵綴目型水指

径16.5cm 高さ16.8cm

当代香齋極箱

SOLD





曲げ物の水指を模した、やきものの水指です。綴じ目の部分にかかると夕顔が絵付けされており、内側は青磁釉が掛けられています。蓋は黒釉が掛けられたやきもので作られた共蓋です。高台内に真葛印が押されています。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。



11. バカラ 金筋コップ10客組

径5cm 高さ9cm



戦前に作られたオールドバカラと呼ばれる古い手です。明治期にその当時の大阪の古美術商 春海商店 の主人が フランス バカラ社に特別注文したものが最初です。暖かい季節に涼しげな 御茶道具を求めのお茶人のために、鉢などの懐石食器や 水指などを注文しました。

12. 森陶岳 六角皿5客組

SOLD

径25.8cm 高さ3.4cm

共箱



森陶岳は、備前の現代陶芸家です。

六角形の特徴的な形に、見込みには5客ともそれぞれ違った赤い筋状の緋襷が見られます。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。





13. 和太守卑良 薔文皿

径22cm×41cm 高さ3.5cm
共箱



高台 銘の拡大図

和太守卑良は、京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）で、富本憲吉と出会い、その後茨城県笠間市に移住し築窯しました。和太守卑良は、独創的で抽象的な様々な文様を作りました。本作品には薔薇の文様が装飾されているまな板皿です。長方形ではなく、少しびつな形をしており、ひとつの角は隅切です。高台に足が付いており、高台の真ん中には線彫のサインがあります。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

14. 河井寛次郎 福寿花瓶

口径8.7cm 胴径17cm 高さ24.5cm

共箱

SOLD





本作品は、中国の古陶磁の影響を強く受けた作品です。河井寛次郎は、民藝運動に参加する以前は、中国や朝鮮の古陶磁を参考にした作品を制作していました。胴に「福」と「寿」字が書かれています。高台に「寛」の印が有ります。また箱の蓋裏には「鐘寛」の箱書きが有ります。「鐘溪窯」と「寛次郎」の一字を取ったものだと考えられます。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

15. 河井寛次郎 緑釉筒描線文碗

SOLD

径13cm 高さ8.5cm

河井紅葩極箱

所載：「ふるさと安来に贈られた河井寛次郎のころ」No.52



口縁から胴の外側にかけて、緑釉が掛かり、筒描きで文様が描かれています。寛次郎の娘の紅葩の極め箱があります。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

16. 河井寛次郎 香炉

径9.5cm×9.8cm 高さ9.5cm

共箱



口縁に薄く鉄釉を施し、器面には辰砂の赤と呉須の青、鉄釉の茶色を用いて花文様が2か所に描かれています。寛次郎は香炉をあまり作っておらず、大変貴重な逸品です。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。



17. 芹澤銈介 額 型絵染 鯉 **SOLD**

額のサイズ：縦76cm 横55.5cm

芹澤長介極シール

濃紺の麻地は水面を表わすのでしょう。中国では、鯉は滝を登りきると龍になるといふ言い伝えがあります。鯉の滝登りとも言われます。鯉は立身出世・家内安全を司り、生命力が強く縁起がいい出世魚とされています。芹澤銈介は、型絵染で人間国宝になりました。芹澤長介の極めシールが額裏に付いています。芹澤長介は、芹澤銈介の長男です。

※極めシールの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

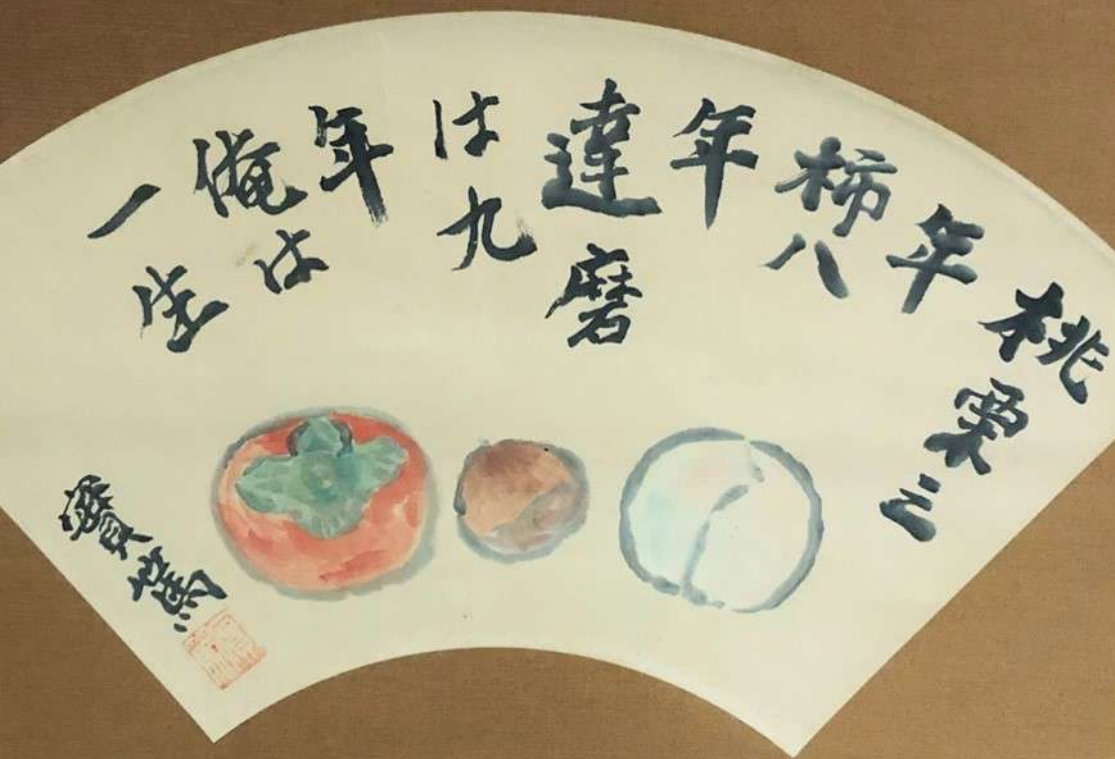


18. 武者小路実篤 扇面 桃栗三年柿八年幅

幅63.5cm 長さ117cm

共箱

SOLD



武者小路実篤はこの歌について次のように言っています。桃と栗は三年、柿は八年かかって実がなります。達磨大士という禅宗の開祖とされるお坊さんは、座禅を組んでから九年もかかって悟りを開きました。でも、私の成し遂げたいことは、そんな短い時間では成し遂げられません。恐らく、私の願いを実現するためには一生かかってしまうでしょう。 ※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。



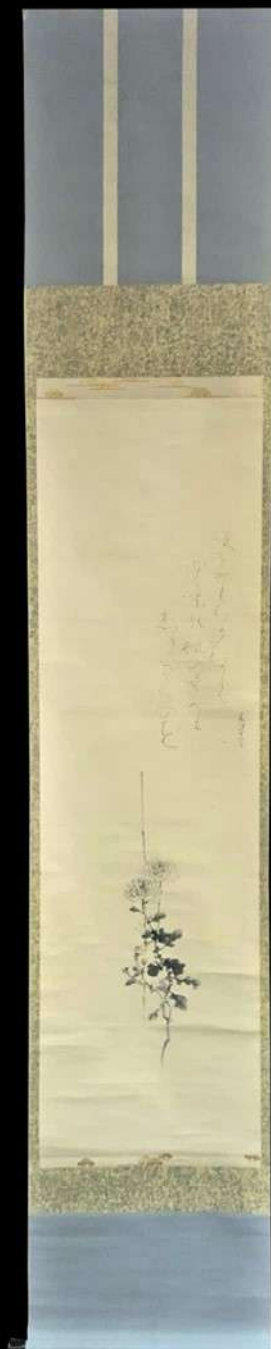
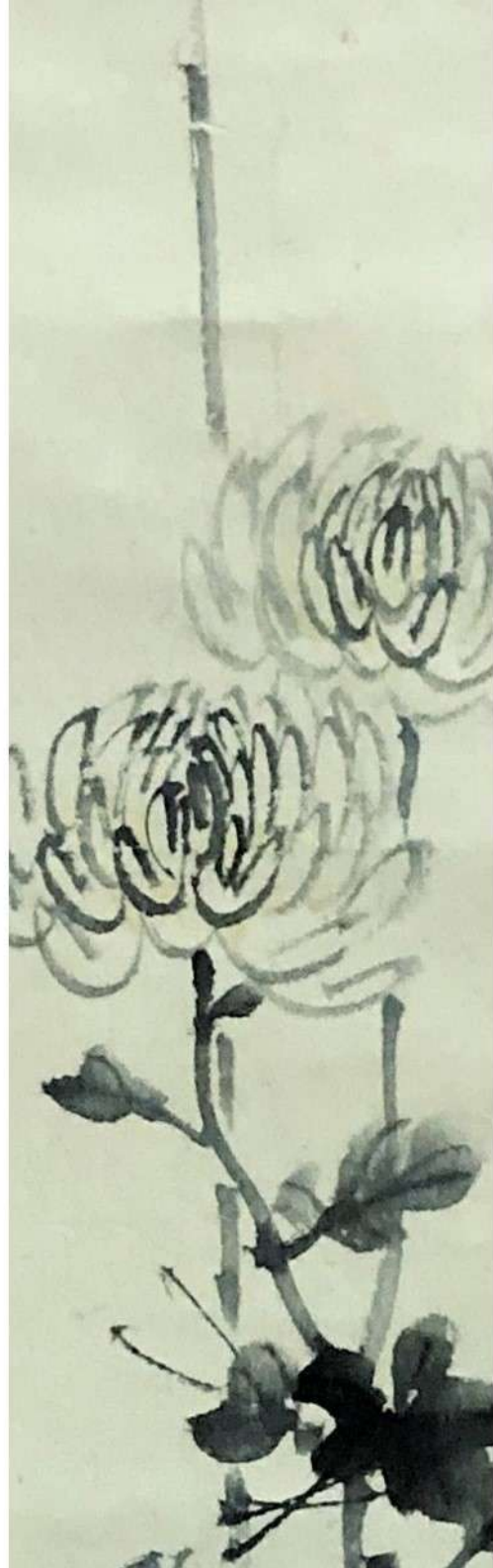
19. 大田垣蓮月 白菊画賛幅

幅65cm 長さ190cm

SOLD

咲きそめし
千代のむかしも
ゆく末の
秋のかぎりも
しら菊の花

蓮月画



咲きそめし
千代のむかしも
ゆく末の
秋のかぎりも
しら菊の花

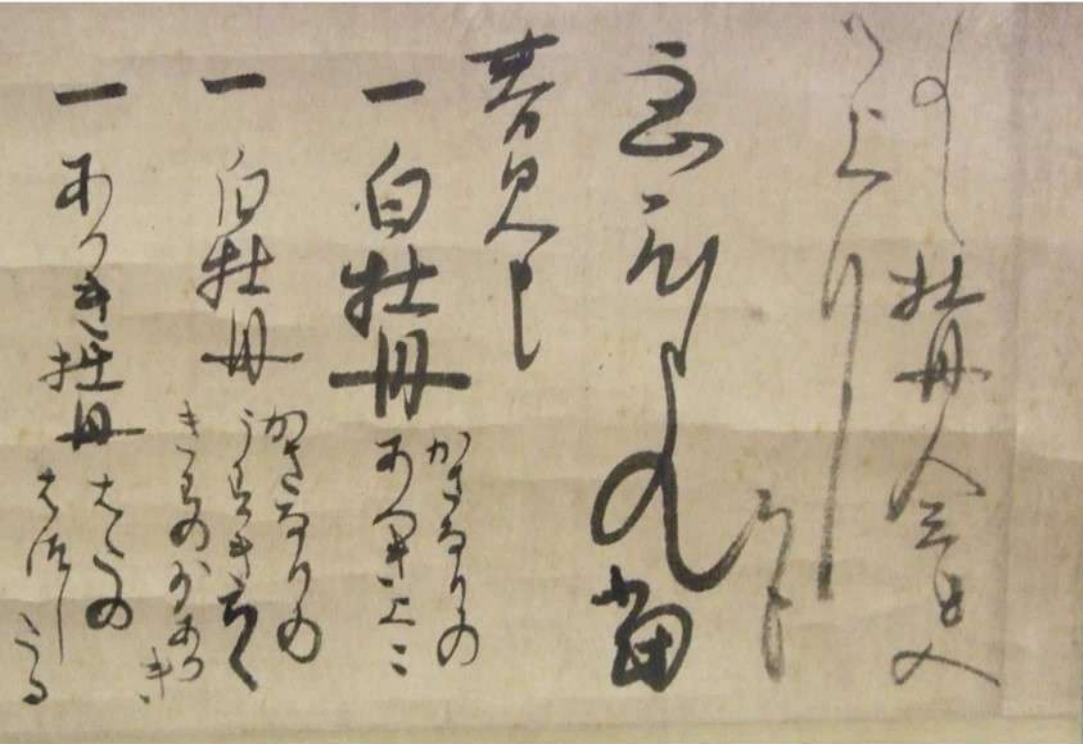
蓮月らしい美しい流麗な独特の書体で書かれた自詠の和歌です。蓮月は新潟の貞心尼、加賀の千代女幕と並ぶ幕末の三大女流歌人の一人です。

20. 小堀遠州 牡丹の文幅

幅87.5cm 高さ103cm

田山方南箱書

SOLD



小堀遠州は、戦国時代から江戸時代前期にかけて活躍した大名で、幕府の作事奉行として建築・造園に才を発揮しました。また、茶道 遠州流の祖でもあり、徳川將軍家の茶道指南役をつとめたことでも知られています。

箱書きは昭和33年に文部省国宝監査官であった田山方南氏がしております。禅僧の墨蹟研究者としても知られています。なお、箱書きにある田内静三は、国立博物館次長を務めた昭和の詩人です。昭和33年に田山氏が田内氏の求めに応じて箱書きされたことがわかります。

※箱書きの写真は、最終ページの箱書き一覧にあります。

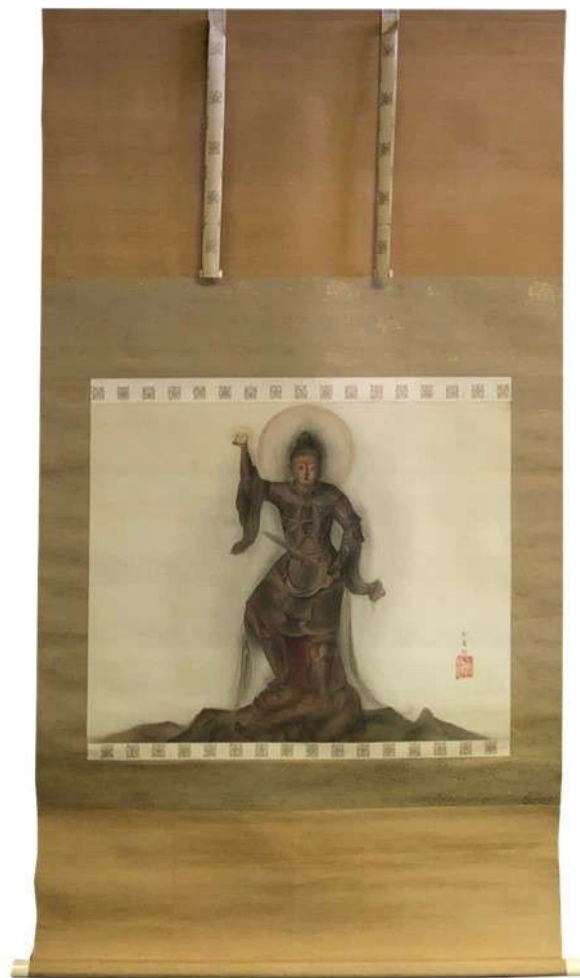


本掛軸の書状には遠州が牡丹の株を譲ってくれるよう依頼する内容が記されています。

21. 堂本印象 持国天像図幅

幅89cm 長さ163cm

共箱 絹本

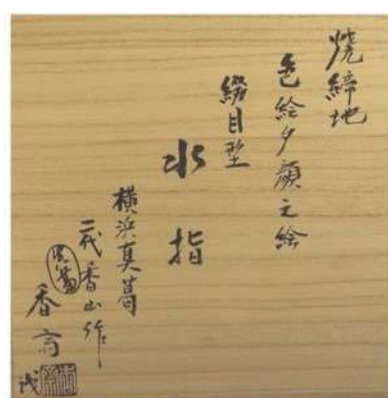


左手に剣、右手に宝珠を持ち、邪鬼を踏みつけている持国天像が描かれた大幅です。持国天は、仏教における仏神で、増長天・広目天、多聞天と共に四天王の一尊に数えられます。

※箱書きの写真は最終ページにあります。



箱書き一覽



和光寺卓長

海壽共謀
種寛

芹沢銈介作
型繪染 鯉
芹沢長次識

小堀遠州公牡丹の文
田内靜三雅克書
和光寺三年仲夏 田山方面題

所願奉寫尊像
持國天像

柳泉

意次郎 作
緑袖筒柄縁之碗
河井紅範

香爐
寛

實篤
桃栗三年